台湾国立宜蘭大学　短期留学プログラム

8/22

両校交流キック
オフミーティング
（研究紹介・自己紹介）

研究室見学
（バイテク、食品、ドローン・ロボット、森林）

レジャー農業体験
（茶生産者：祥語有機農業）

夜間山林生態
見学ツアー
（三富農場）

8/23

レジャー農業体験②
（ネギ生産者：蔥仔寮）

大同郷泰雅族原住民生活館見学

8/24

＜自由見学＞

↓台湾地下街の日本製グッズ販売店

九份観光
「千と千尋の神隠し」のモデルとして有名。
日本の夏祭りのような雰囲気で、屋台が建ち並ぶ　↓

↑　パートナーと一緒に撮影

↓　台湾は外食文化が発達。種類や量も豊富！

派遣学生は宜蘭大学学生パートナーとともに、それぞれのプランで台北を見学

8/25

国立伝統芸術センター
各種テーマパーク訪問

8/26

亀山島見学（観光船）
（イルカウォッチングなど）
蘭陽博物館見学
大学構内で活動報告
（宜蘭大学パートナーとともにプレゼンテーション）

宜蘭大学との交流

●研究室見学●

・スマートフォンのsiriで話しかけることで動く人型ロボットに圧倒。その他湿度、気温、日射量等、植物が生育するために必要な条件を自動的にコントロールできるハウスを見せていただいた。（町田）

・ロボティクス分野ではドローンの操縦、画像処理を用いた自立走行、音声認識によるロボット制御実演を見ることができた。（橋本）

・音声認識ロボットや、タブレット操作ドローンの性能の高さに驚いた。これらは農工連携を必要とする場で役立ちそうだと思った。（早川）

●夜間山林生態見学

・カエルが巨大で独特の鳴き声。（早川）

・蚊が卵を産む場所を、あえて人間が作ることで発生場所を限定し、蚊の卵を食す魚をその池に放す等、生態系をうまく使った蚊発生抑制の方法に驚いた。日本でも活用できそうだ。（松渕）

●宜蘭大学の学生●

日本語を流暢に話せる人が多いことに非常に驚いた。（小林）

日本語を、日本のアニメ、ドラマ等で独学で学んだ学生が多い。

サポーター―の学生は皆優しく接してくれたので、留学中はずっと心強かった。（佐々木）

私の宜蘭大学のサポーター学生は、二人とも中国と英語の他に、日本語も話せた。（奥田）

台湾の農業

●レジャー農業体験より●

・日本ほど後継者不足や農業就業者不足が深刻でないため、作業効率化を図る機械導入は、あまり必要とされておらず、台湾の農業は機械化が進んでいない。乾燥した茶葉を荒葉に仕上げる工程も、ネギ洗いもすべて手作業だった。

また、農園で体験した茶葉の菓子を食べてもらい、その人が帰国してから、またその菓子を購入したくなるようなビジネスの仕組が面白い。（佐々木）

・レジャー農業は、ネギ農園で収穫体験後にそのまま料理をして試食したり、茶葉を収穫後すぐ乾燥作業をして試飲したり、持ち帰ったりもできるので、とても楽しかった。（小林）

・農業はつらくつまらないイメージがあったが、収穫から加工処理までの過程がとても楽しく、農業のイメージが覆った。老後はレジャー農業を経営したいと思った。（町田）

・道端にたくさんのフルーツの樹木が生えている（松渕）

・農業について考える機会が少ない工学系専攻の私にとって、この体験は、農工連携を考えるよい機会となった。（奥田）

・日本では農業の担い手不足が深刻だが、台湾では農業を選ぶ若者も多いと感じた。（早川）

台湾の文化

●台湾の食文化●

・台湾ではスーパーマーケットや屋台で食事を摂った方がコスト面でも安いので、外食文化が発達している。賃貸住宅の場合、キッチンがない物件もあるそうだ。留学期間中は毎食外で食べた。（佐々木）

・食事は日本人の口に合う美味しいものが多く、果物も豊富に売られている。屋台がならぶ夜市では安い値段でたくさんの料理が売られている。（早川）

・台湾の人は、とにかくたくさん食べる。日本では料理により皿を変えるが、台湾では皿は1枚を使い回し、料理のたびに変えない。

朝ご飯に便利な、たくさんの具材を一緒に入れるおにぎりはとても美味。（松渕）

・風土に合わせた外食メニューが豊富なので、特産のネギ入りが多い。（小林）

・料理は円卓で大皿にのった料理を皆で取り分ける。食べ物が残っていても店員が次々料理を入れ替えるのは疑問。（奥田）

●台湾は多民族国家●

台湾は多くの民族がいて、それぞれの民族で衣装や祭りが数多く存在。日本の楽器や家屋の展示物や日本人建築士の建物もあり、とても身近に感じた。（早川）

台湾と日本

・親日派が多く、台湾の人々は流暢に日本語を話す。

基本的に中国語や英語使用だと思っていたら、パートナーの学生の約半分は、会話も文章も巧みな日本語を用いていた。

日本語のアニメが好きで、独学で覚えた学生が多い。

日本でおなじみのファーストフード、コンビニがそこかしこにあり、車やバイクも日本製が多い。広告には「安心の日本製」を掲げている。（小林）

・台北に日本のアニメや映画の広告がたくさんあった。日本文化が台湾に広がり、人気を集めていると聞き、日本文化の素晴らしさを実感した。（橋本）

・日本商品が、日本人が台湾で生活しても困らないほどにあふれている。化粧品やお菓子の半分くらいは日本製。

日本人は台湾人に比べて、トイレの衛生面や食物が触れる部分への除菌等について、神経質すぎることがわかった。

台湾の学生は自国をよく知っていて詳しく説明してくれたのに、逆に質問されたとき説明できず、日本の歴史についての知識の乏しさを感じた。日本を客観的に見つめるよい機会となった。

（佐々木）

・日本人をとてもリスペクトしており、日本のことを色々尋ねてくれたのに、答えられない場面があり、幅広く自国日本や秋田について説明できるようにしたいと思った。（小林）

◆　留学参加学生　◆

小林洸瑠（電子3年）・橋本真澄（院・機械1年）・奥田優樹（院・電子2年）
町田大和（応用3年）・佐々木南帆・早川修平・松渕優子（生産3年）

◆　引率教員　◆

藤　晋一　教授（生産）／山本聡史　准教授（アグリ）